

～被災者生活再建と持続発展する地域コミュニティ創造～ 内陸災害公営住宅・南青山アパートからの発信

令和2年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅡ】採択課題

課題名：被災者生活再建と持続発展する地域コミュニティ形成のモデル創造としての「内陸災害公営住宅・南青山アパート」の建設・管理・運営における実践研究

研究代表者：総合政策学部 教授 倉原宗孝

課題提案者：岩手県県土整備部建築住宅課、もりおか復興支援センター

研究メンバー：伊藤勇喜・小野寺哲志（岩手県建築住宅課）

金野万里・外柳万里（もりおか復興支援センター）

技術キーワード：被災者生活再建、災害公営住宅、地域コミュニティ、南青山アパート

▼研究の概要（背景・目標）

本研究は「災害公営住宅の生活・運営モデルの構築」と「持続発展する地域コミュニティのモデル構築」の二つの射程のもとに極めて実践的かつ多様な活動を地域各主体との協働関係の中で取り組んだ。震災復興において県内最後（＝全国最後）の建設・入居となる災害公営住宅、南青山アパートの建設・管理・運営の一連の過程の中で入居者（被災者）の安心できる暮らしやコミュニティの確保・育成と共に、そのための技術的・制度的知見を蓄積してきた。同時に、それに関わる諸活動の中で当該公営住宅が立地する町内会をはじめ地域コミュニティが持続発展する回路を形成しつつある。これらのことは、震災復興における住まい・暮らしの再建という直接の目的・成果に加え、これからの地域社会の形や仕組みを提示している。

▼研究の内容（方法・経過）

調査対象、調査内容

大きくは、●災害公営住宅の建設・入居まで、●入居後の公営住宅内外に向けた多様な取り組みと検証、●南青山コミュニティ番屋（通称：番屋）を核とした入居者と地域への支援（個別支援と地域支援）になる。また制度・運営に資するための全国事例調査・情報収集を行った。

▼研究の成果（結論・考察）

●岩手県・盛岡市をはじめ関係各者の協力のなかで、入居者や地域に対して、説明会やワークショップ、現地見学会など非常に丁寧な説明と検討が進められた。その内容は公営住宅の空間・設備面にも反映された。

●建設後も入居者への生活支援、自立的な組織・体制づくり、町内会など地域コミュニティとの相互交流・向上に向けて各種イベントや学習会などが試行錯誤のもとに継続実践され一定の成果を生んできた。これらは今回の経験と体制を基盤にして、今後もさらに持続展開していく。

●個人支援と地域支援の双方・相互作用を睨む青山コミュニティ番屋が機能し始めた。今後もアパート内の支援はもとより地域福祉・コミュニティ支援の拠点としての活動が期待される。その一つの装置として作られた森のテラス（森テラ）と命名された集会所とその周辺空間の使われ方と成長も楽しみである。



【建設・入居まで】入居予定者・地域住民・関係各者と丁寧な説明と検討が進められ、相互の認識・理解・共感が高まる。



【完成式・鍵渡し・番屋開所】地域内外多数参列のもと完成式。番屋のお披露目。



【入居者主体の公営住宅運営】

「南青山アパート会」が設立。集会所・環境整備・駐車場など各部会を作り住民の自律的運営へ。

【地域内外に開かれた多様な試行実践】公営住宅内外に開かれた多様なイベント・学習会の実践。

【個人と地域の支援拠点形成と実践（番屋）】入居者支援（個人支援）と地域福祉・コミュニティ支援（地域支援）の拠点として番屋が形成、持続的な活動へ。

【地域に育まれるコミュニティと暮らし】A P と地域の相互交流から新たなコミュニティ・福祉生成



▼今後の課題と期待 入居者間またアパート・地域間の交流・コミュニティ育生の体制が整ってきた。その上で今後は、公営住宅運営における県・市と大学連携等の体制も視野にさらに持続的創造的取り組みを拓いていく。

▼謝辞 各機関・団体様など極めて多くの方々にお世話になった。感謝したい。特に入居者皆さん、地域の皆さんには暮らしや活動を共にさせて頂いている。深く感謝すると共に引き続き協働活動に向かいたい。